

沼袋駅周辺 まちづくり新聞

NUMABUKURO EKISHUHEN MACHIDUKURI SHINBUN

vol.3
SEP2005

発行：沼袋駅周辺まちづくり勉強会
編集協力：早稲田大学
都市・地域研究所

3

沼袋通信

No. 3

Date. '05.04.20

最近すっかり暖かくなり、また春がやってきたんだなぁと実感する毎日ではありますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

早いもので、沼袋駅周辺まちづくり勉強会の活動も2年目の春を迎えています。昨年度、この勉強会では毎月のWSを通して沼袋の魅力や課題などの現状、そして沼袋の将来像、さらに交通など安全性や利便性を含めた広域ネットワークの検討など、様々な活動をして

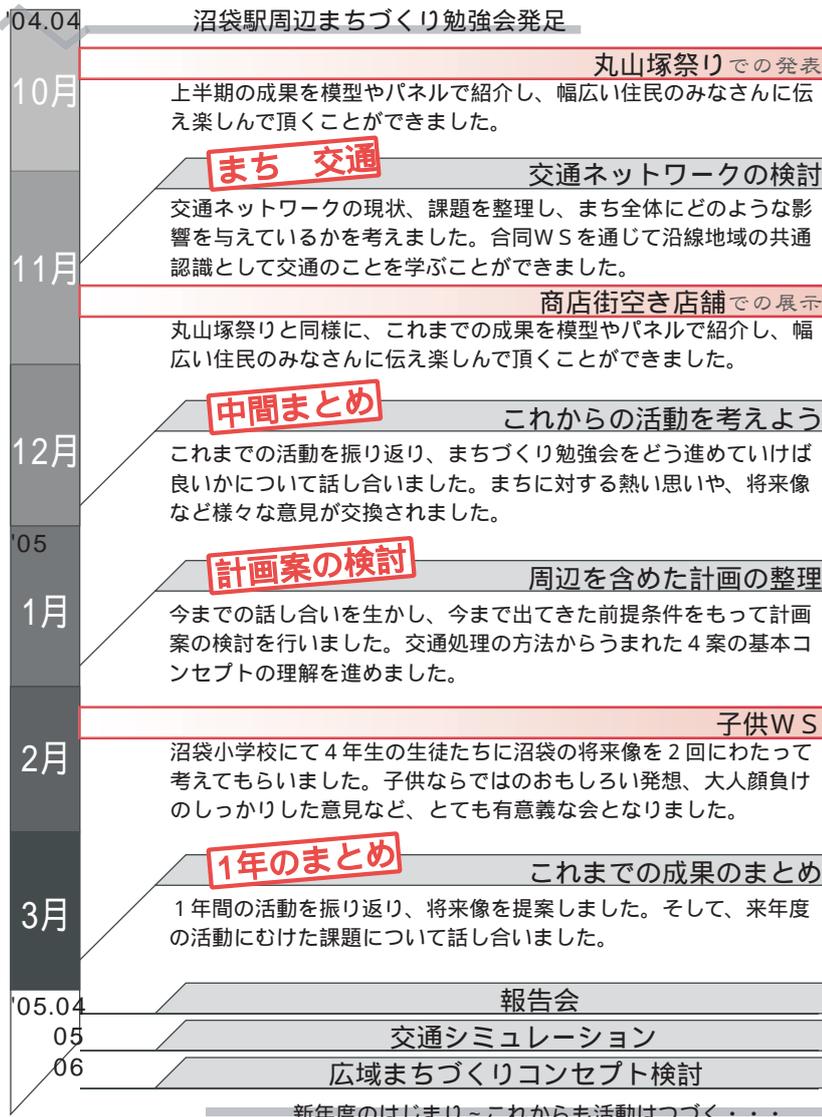
まいりました。

このような活動を通じて最も大きな成果だと思えるのは、真剣に自分たちのまちを語り合える多くの仲間ができ、沼袋を再確認することでさらに好きになれたことではないかと思うのです。

これから沼袋は大きく変わろうとしています。私たち住人の誰もが沼袋が好きだと思えるよう、さまざまな立場の人たちの参加を願っています。どうぞこれからも沼袋駅周辺まちづくり勉強会をよろしく願います。

沼袋勉強会代表 小林交成

沼袋駅周辺まちづくり勉強会 スケジュール



月に1度ずつ沼袋地域センターで行っている勉強会も、今年度で11回を数えました。新聞第1号では、4～6月の活動を、新聞第2号では7～9月の活動を紹介しました。そこで第3号となる本号では、10月～3月を中心に紹介していきたいと考えています。

10～3月と間隔が少し空いてしまいましたが、様々な活動がありました。10月には丸山塚祭りでの発表。多くの皆さんに活動を知って頂くとともに楽しんで頂くことができました。11月には広域からみた沼袋、そして商店街での展示。忙しく活動した月でしたが、新たな知識を学ぶとともに、実りある月でした。12月には年末としての中間まとめ。活動の再確認をし、これから歩いていく方向を見決めました。年も明け1月には11月WSでの広域のネットワークを踏まえた計画の整理。検討してきた計画案がより一段と具体性をもって考えることができました。2月には小学生WS。新鮮な意見をもらい柔軟な考え方を学びました。3月にはこれまでの成果のまとめ。一年間という重みを感じました。

これからより具体的に他地域との交流も含め活動していきます。ぜひ、みなさんの貴重な意見をお寄せください。

目的：これから考えていかなければならない広域的な問題について、どのような考え方ができるのかを、沿線地域の共通認識とするために地域の交通のことを学びました。

STEP 1

早稲田大学浅野教授の講義を通して、中野区の交通の現状や望ましい交通の考え方などについて、両勉強会メンバーが共に勉強しました。



こんな質疑応答がありました
 ・踏切がなくなると今よりさらに交通量が増えるのでは？そういったパドケースはどうしたら回避できるか？
 通過交通が増えたケースはある。立体交差だけでなく、周辺を含めた「交通マネジメント」や「地域のまとまり」が大切。

STEP 2

交通の視点からまちを考え、整備の際の交通システムへの影響などについて話し合いました。また、最後には両勉強会でエール交換をしました。



・少子高齢化、人口減少が予測される中で、交通計画のまちづくりの展望は？
 交通はあくまでまちづくりのきっかけ。交通で何でも解決する訳ではない。まちづくりにおいて人口減少を考えるなら、1人当たりの使える面積が増えることをどう活かすかを考える必要がある。

目的：これまでの活動を振り返り、まちづくり勉強会をどう進めていけば良いかについて話し合いました。

STEP 1

4月からこれまでに進めてきた各勉強会で、どんなことを行い、どんなことを話し合ったのかをスライドで振り返りました。



こんな意見が出ました
 ・駅や商店街についてコンセプトを明確にしていく必要がある。
 ・勉強会の成果をより発展させるため、多様な主体が協働していく必要がある。



STEP 2

これまで話し合ってきた内容を再確認した上で、これからの勉強会やその他のまちづくり活動をどう持続させていくかを話し合いました。



目的：今までの話し合いを生かし、今まで出てきた前提条件をもって計画案の検討を行いました。交通処理の方法からうまれた4案の基本コンセプトの理解を進めました。

STEP 1

12月までのスタディ案の検討での皆様のご意見、そして広域的な分析なども踏まえた上で、再度組み直した4つのスタディ案を発表しました。



STEP 2

こういった案を実現させるにあたって、どんな整備手法が考えられるのか？など、少し現実的な面を考慮した話し合いもなされました。



沼袋あれこれ
まちづくり勉強会

魅力

- ・写真の右側の南北交通は良いと思う
- ・開発にかかる時間が短くすみそう
- ・実用性が高い、具体的にイメージしやすい
- ・イベント広場がよい
- ・今までの計画、そのまま利用した改善でわかりやすい、自然な感じがする。跡地をそのまま利用する様な感じ。

課題

- ・商業的な施設等のスペースが少ない
- ・駅前の交通が複雑になる様な気がする
- ・商店街の通過交通も多く買い物などどう解決するか
- ・商店街の時間帯単行通行止めは、東西交通をどうするか。現在は、車で駅から北へ向かう場合にとても不便
- ・バスの通り、商店街の歩道のままだいいか？という感じがある

10

目的: 1年間の活動を振り返り、3班に分かれて将来像を提案しました。そして、来年度の活動にむけた課題について話し合いました。

STEP 1

3班に分かれ、駅周辺、線路跡地、駅前商店街について、将来に向けた提案と実現するための課題とを合わせて考え、パネルを作成していきました。



STEP 2

各班のまとめを発表し、他の班のまとめと比べてみることで、沼袋が持つ将来の可能性、来年度により深く考えていくべきテーマを確認しました。



こんな意見が出ました

- ・人と人、人とまちがつながるまちづくり
- ・リングで四季ネットワーク
- ・地元で愛される人情味商店街づくり



地域との活動

まちに対して情報を発信しよう1

2004年10月24日(日) 丸山塚公園、わいわい祭

目的

沼袋駅周辺まちづくり勉強会の活動をより多くの人に知ってもらえるように、「わいわい祭」に半年間の成果をパネルや模型などで展示しました。



自分やまちの将来を絵馬に書き込んだり、沼袋の地図の中に動物を探したりしました。



内容

当日は沢山の親子連れの方が来てくださって、絵やまちづくり絵馬等を書いたり、模型を触ったりと楽しみながらまちの事を皆さんと一緒に考える事が出来ました。



地域との活動

まちに対して情報を発信しよう2

2004年11月23日(火) ~ 28日(日) 沼袋商店街通、空き店舗

目的

普段勉強会に参加できない主婦やサラリーマン、また沼袋駅を利用している学生方々に勉強会の活動を知ってもらうため、沼袋商店街通り沿いの空き店舗をお借りして一週間弱の展示を行いました。



模型が皆さんの注目の的となった事もあり、通学途中の学生や子供達等毎日多くの方が訪れ、色々な立場からのまちへの思いを伺う事が出来ました。



内容

これまでの活動の成果や勉強会で出た生の声を張ってあるシート、沼袋の現況模型等が展示されました。また、わいわい祭りに続き、多くの子供達がまちづくり絵馬を書いてくれました。





2005年2月04日(金) 08(火) 沼袋小学校

目的

沼袋の今後のまちづくりの主角となる小学生たちにもっと自分たちのまちの事に興味を持ってもらえるように、2日間に渡るワークショップを行いました。



駅、平和の森公園、駅前商店街・・・様々な場所に楽しい提案をたくさんしてくれました。

内容

20年後の沼袋である1日の絵日記を一人一人が書きました。そして6つのグループに別れ、大きな地図にみんなの活動を載せて将来のマップを作りました。



コラム・「20年後の沼袋のまちを考えて」

沼袋小学校 4年生担任教師 金子 佳生

「みんなが沼袋のまちを良くしようと考えていたり、まちのことを考えていたりしたのを知って驚いた。」「踏み切りがなくなる計画を知って嬉しかった。」など、これらは学習を終えた子どもたちの感想である。子どもたちがいかに自分達の住んでいるまちに愛着があり、より住みやすくしたいと願っていることが良く分かった。だから、遊園地や図書館、サッカー場、緑溢れる広場など、夢いっぱいのまちを考えたのだ。また、中には沼袋小をいつまでも残しておいて欲しいという切ない意



見もあった。子どもたちが自分のまちを誇りに思え、夢を持てるような沼袋のまちになればと心から思わせた取り組みだった。



編集後記 ~おわりに~

まだ気温の上り下がりはあるというもののよーやくゴルフの季節になってきましたね。ぽかぽか陽気の下に咲く草花を見ながらプレイするのは気持ちのいいものです。ゴルフの話はさて置き、ようやくこの沼袋駅まちづくり勉強会も実りの季節を迎えました。1年間の長いようで短い議論の中で芽から蕾みに、そしてこの発表会で花が咲いたとでも言うのでしょうか。これも偏に皆さんの暖かいご支援があつてのものだと感じております。そして今回の発表会と言う舞台をばねにして、沼袋に関わる多くの皆さんとよりいっそうまちをよくしていきたいと感じています。

勉強会 副会長 石原 照夫